

令和7年度 校内研究の全体計画

1 研究主題

「自ら進んで学び、考えを広げ深める児童の育成」
～個別最適な学びと協働的な学びをつなぐ算数科の授業づくりを通して～

2 主題設定の理由

本校は昨年度から、算数科の問題解決的な学習において、児童が自分なりの考えを導き出すことができるための方法を日々の授業実践で試して追究してきた。「自分なりの考えを導き出すことができるように、問題解決の方法を選択・決定する活動」と「必要感をもって他者と関わる活動」を取り入れた、個別最適な学びと協働的な学びをつなぐ算数科の授業づくりを通して、研究主題である「自ら進んで学び、考えを広げ深める児童の育成」に力を入れ、児童が自ら進んで学び、考えを広げ深めようとする意識をもてるようになってきた。具体的には、昨年12月に行った意識調査の「授業中、学習のめあてをもち、自分から進んで考えることができますか」で、本校の92%の児童から、「友達の考えを聞いて、自分の考えをより良いものにしようと思ったことがありますか」で、95%の児童から「そう思う」「だいたいそう思う」という回答が得られた。

1月の教研式標準学力検査CRTでは、「思考力・判断力」において、全国比105以上を目標に設定していた。その結果、4つの学年が全国比105以上を達成できた。しかし、小規模校の少人数学級として普段の学習をみると、学力差が顕著に感じられ、低位の児童は、自分にあった学習用具や形態を選べなかったり、話し合いに参加できず、「お客さん状態」になったりしていた。また、自分の考えに自信がなかったり考えを説明することができなかったりするために、交流の際に友達の考えを写すことに一生懸命になっている児童もいた。そこで、今年度は、昨年度の研究を継続しつつ、問題解決的な学習において、児童が自分なりの考えを導き出し、算数的表現を用いて自分の考えを伝えることができるための方法を日々の授業実践で追究していく。また、全校で統一できることや学年間のつながりを意識した取り組みをしていく。

3 主題における目指す児童の姿

- 課題に対して自分で学習用具を選択して取り組み、他者の考えを聞いて（交流をして）自分の考えを付加、修正、強化していく姿
 - ①付加…他者の考えを聞いて、納得したり、考えを増やしたりする
 - ②修正…他者の考えを聞いて、自分の考えを変えたり、より良いものにしたりする
 - ③強化…他者の考えを聞いて、自分の考えに自信をもち、表現する

- 算数的表現を用いて自分の考えを伝える姿

算数的表現

問題解決するための考えを、具体物、図、言葉、数、式、表、グラフ、算数用語などを使って説明したり表したりすること。

4 研究の目標

個別最適な学びと協働的な学びをつなぐ算数科の授業づくりを通して、児童が自ら進んで学び、考えを広げ深めることができるようにする。

問題解決的な学習において、児童が自分なりの考えを導き出し、算数的表現を用いて自分の考えを伝えることができるための方法を日々の授業実践で試して追究していく。
また、全校で統一できることや学年間のつながりを意識した取り組みをしていく。

5 研究の内容

(1) 「授業づくりのステップ」を基にした指導過程を考え、児童が見通しをもって主体的に取り組めるための授業を行う。

① めあての設定

- ・学級の実態に応じ、授業者のねらいに沿った、且つ児童に分かりやすいように

② 「自分なりの考えを導き出すことができるように、問題解決の方法を選択・決定する活動」の工夫

- ・学習形態（個人、ペア、グループ、教師と など）
- ・学習用具（タブレット端末、ノート、ワークシート、具体物 など）

③ 「必要感をもって他者と関わる活動」

- ・考えの共有（話し合い活動の設定、ICTの活用 など）
- ・思考の見える化（思考の可視化）
（板書の工夫、ICTの活用、ホワイトボードの活用、具体物の操作 など）
- ・問いへの焦点化（発問、問い返し など）
- ・問題解決するための考えを、具体物、図、言葉、数、式、表、グラフ、算数用語などを使って説明したり表したりする

④ まとめ、ふり返りの視点

- ・児童自身が、学習の達成感を味わい、学んだ内容を再確認するなど、次時につながる学習意欲と見通しをもつことができるように
- ・学習用具（タブレット端末、ノート、ワークシート、具体物 など）

(2) 児童の意識調査の活用（児童の算数科の学習に対する、意識の変化を把握する）

(3) 学習習慣を身につけさせるために以下のことを取り組む。

- ①タイピングタイム ②スキルタイム（国語・算数） ③朝読書
④おすすめの本30冊 ⑤ノーメディアデー

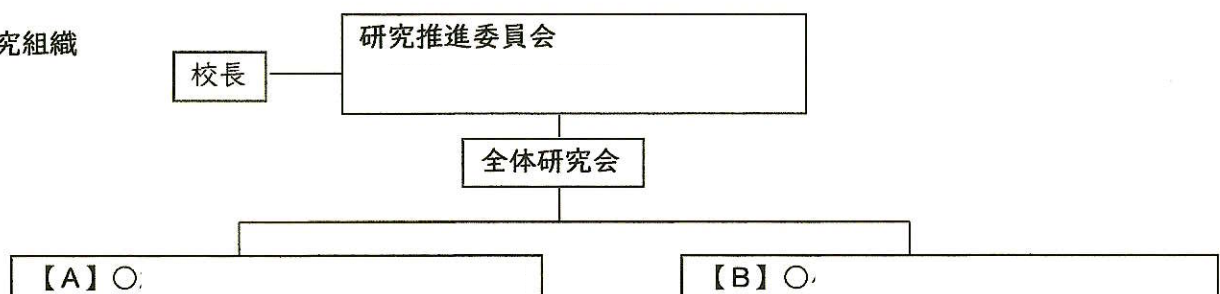
6 研究の方法

(1) 教材分析や児童の実態把握、単元計画等の事前研究

(2) 指導案や発問、板書等の検討・模擬授業・提案授業・研究授業・事後研究

(3) 文献及び、講師招聘による理論及び実践（師範授業）研究

7 研究組織



○は、各グループのリーダー

8 研究計画

月	内容	月	内容
4	3日：第1回研究推進委員会 ・今年度の校内研究・全体計画 21日：第2回研究推進委員会 ・指導案の書き方・意識調査等 23日：第1回全体研究会 ・今年度の校内研究・全体計画・グループ別打ち合わせ（目指す児童の姿、学年のつながり等）	11	12日：第9回全体研究会 ・全体研指導案検討②（年） 日：第10回全体研究会 ・全体研研究授業②（年） 「 ー講師招聘ー
5 ・ 6 ・ 7 ・ 8	5月 7日：第2回全体研究会 ・指導案の書き方・意識調査等 6月 2日：第3回研究推進委員会 11日：第3回全体研究会 ・提案授業（2年） 「 ー講師招聘ー 7月 9日：第4回全体研究会 8月21日：第5回全体研究会（G研） ・教材研究、打合せ等（各G）	12	1日：第4回研究推進委員会 3日：第11回全体研究会 ・校内研究のまとめの提案
9	10日：第6回全体研究会	1	21日：第12回全体研究会 ・授業の実際と成果と課題について
10	8日：第7回全体研究会 ・全体研指導案検討①（年） 日：第8回全体研究会 ・全体研研究授業①（年） 「 ー講師招聘ー	2	9日：第5回研究推進委員会 18日：第13回全体研究会 ・校内研究のまとめ ・次年度の校内研究について

※Aグループ…G研（2）、全体研（1） Bグループ…提案（1）、G研（1）、全体研（1）

令和7年度 校内研究構想図

学校教育目標

ふるさとを愛し、自ら学び、たくましく生きる児童の育成

研究主題

「自ら進んで学び、考えを広げ深める児童の育成」
～個別最適な学びと協働的な学びをつなぐ算数科の授業づくりを通して～

研究の目標

個別最適な学びと協働的な学びの実現に向けた算数科の授業づくりを通して、児童が自ら進んで学考えを広げ深めることができるようにする。

問題解決的な学習において、児童が自分なりの考えを導き出し、算数的表現を用いて自分の考えを伝えることができるための方法を日々の授業実践で試して追究していく。

また、全校で統一できることや学年間のつながりを意識した取り組みをしていく。

研究の内容

教師の授業力向上

考えを広げ深めるための学習指導の工夫

- ① めあての設定
- ② 「自分なりの考えを導き出すことができるように、問題解決の方法を選択・決定する活動」の工夫
- ③ 「必要感をもって他者と関わる活動」
- ④ まとめ、ふり返りの視点
 - ・児童自身が、学習の達成感を味わい、学んだ内容を再確認するなど、次時につながる学習意欲と見通しをもつことができるように
 - ・学習用具（タブレット端末、ノート、ワークシート、具体物 など）

家庭との連携

「自分なりの考えを導き出すことができるように、問題解決の方法を選択・決定する活動」
・学習形態（個人、ペア、グループ、教師と など）、学習用具（タブレット端末、ノート、ワークシート、具体物 など）

「必要感をもって他者と関わる活動」
・考えの共有（話し合い活動の設定、ICTの活用など）、思考の見える化（思考の可視化）（板書の工夫、ICTの活用、ホワイトボードの活用、具体物の操作 など）、問いへの焦点化（発問、問い返し など）、問題解決するための考えを、具体物、図、言葉、数、式、表、グラフ、算数用語などを使って説明したり表したりする

学習習慣定着のための取組

- | | | |
|-------------|-----------------|-------|
| ① タイピングタイム | ② スキルタイム（国語・算数） | ③ 朝読書 |
| ④ おすすめの本30冊 | ⑤ ノーメディアウィーク | |